

後期終業式 校長講話

皆さん おはようございます。

異常とも思われる暖冬の影響か、桜の花やミツバツツジが一斉に咲く気配となっています。本日より1週間ちょっとの春休みとなりますが、時間があればお花見などに出かけるのもいいかもしれません。木曽路の春の風景は見ごたえがありますから。

さて、本日、終業式ですので、1年分の学習関係の記録、すなわち成績通知表が担任の先生から皆さんに渡されると思いますが、そこに記載されている数字に一喜一憂するのではなく、きちんと反省をした上で来年度の学習計画を立ててください。特に2年生は、就職にしても進学にしても、ここから先の学習成果が進路に直結しますので、担任の先生を中心にいろんな人に相談をし、充実した高校生活を送ってほしいと思います。

平成という元号もあと少しで終わりとなります。本日は、平成最後の終業式となりますが、まずは皆さんに1枚の写真を見てもらおうと思います。



サッカー部

これは私の高校時代の卒業アルバムに載っている写真です。同じ学年のサッカー部員は12名。この前の年、すなわち2年次に新人戦県大会で優勝していたので、優勝カップも一緒に写っていますね。この12名ですが、残念なことに4年前、すでに一人が亡くなっています。今日はこの中のある一人を取り上げて、彼の高校時代の話を中心に講話とします。今後の皆さんの高校生活の送り方、あるいは人生の歩み方の参考になるのではないのでしょうか。

前列に5人が座っていますが、その左端、彼の名前はNと言います。日義中学校出身で、中学校時代はバレー部に所属していました。生徒会誌にも書きましたが、当時本校のサッカー部は全国大会に三度出場する強豪でした。そしてNは同じ中学出身の先輩が蘇南で活躍しているのを見て、自分も蘇南でサッカーをやって全国に行こうと決意したようです。ただし、高校からサッカーを始めたがゆえ、レギュラーにはなれませんでした。でも3年生まで黙々と練習に打ち込み、そして、どんな時もニコニコして、チーム内では今でいうところの「癒しキャラ」「愛されキャラ」という存在でした。

12名中、大学に進んだのは私を含めて4名でした。そのうち3人は現役で入学できず、1年間予備校に通うことになりました。私もその一人です。サッカー部において唯一現役で大学に入れたのがNでした。私のひとつ上の学年から共通一次試験が始まり、その得点とそれぞれの大学の個別試験の得点を合算して合否が決められるようになりました。今のセンター試験と似た形式です。Nですが、その共通一次試験で高得点をあげたのかというと、実はそうではありませんでした。浪人組3人と同じか、もしくはそれより低いレベルの得点率だったと思います。4人ともその時点で国立は無理だな、もしくは浪人だなと…。

ところが、Nは信州大学工学部化学科に合格したのです。サッカー部どころか、同級生も先生たちもみんなが奇跡だというほどでした。では、なぜ合格できたのか。その答えは簡単です。信州大学の個別試験、化学と数学の試験でほぼ満点の得点をあげていたからです。国立大学の個別試験で満点を取ることは至難の業です。それを彼はやり遂げたのです。

それならば、なぜNは満点を取ることができたのか。その答えは至極簡単です。理数系の科目、特に化学が大好きだったのです。それゆえに常に化学の教科書を持っていました。教室や部室ではもちろん、宮ノ越駅と南木曾駅間、約1時間ありますが、その間も教科書や問題集を読み込んでいました。化学の教科書は他教科の教科書と違って、手垢で真っ黒になっていました。「○○の公式は教科書の何ページに出ているか知っているか？」と冗談交じりに聞いたことがありますが、彼の答えは「35頁の5行目に出ているよ」でした。

念願叶って化学を専門的に信州大学で学ぶようになったのですが、それこそ水を得た魚のように研究に没頭しました。信大工学部の4年間の学部生活だけではまだ物足りず、大学院にまで進みました。大学院は、当時の東京都立大学、今の首都大学東京です。そこでも新たな研究に打ち込み、楽しく充実した大学院生活を送ったようです。その後は、長野県に戻り、長野市に本社を持つ東京証券取引所の一部上場企業において、現在も研究員として働いています。

先日、「終業式の折、校長講話にNのことを取り上げるけれどもいいか？」という電話を久々にしました。この3月から配置転換があり、今は半導体では先進的な国の企業向けに新商品を開発しているとか。忙しくて、毎晩遅くまで働いているようです。

「好きこそ物の上手なれ」という格言があります。好きなことには一生懸命取り組み、工夫したり勉強したりするのでおのずと上達するという意味ですね。言い換えれば、自主的にとことん取り組みれば成果が出るだろうし、他者から強いられてやることは長続きもしないし結果も出ないということになるでしょう。没頭し夢中になり、そして熱中できる「好きな物」との出会いがNの今を作ったと思いますし、Nもオールラウンダーではなかったけれども、打ち込むものがあって幸せだったと言っていました。そんな「好きな物」「打ち込める物」を皆さんも持てるように祈念しつつ、平成最後の終業式の校長講話とします。来年度も蘇南高校を盛り上げてくれるように期待しています。

長野県蘇南高等学校長 小幡 正樹